

## 【投信調査室コラム】

NIPPON  
INDIVIDUAL  
SAVINGS  
ACCOUNT

## 日本版ISAの道 その105

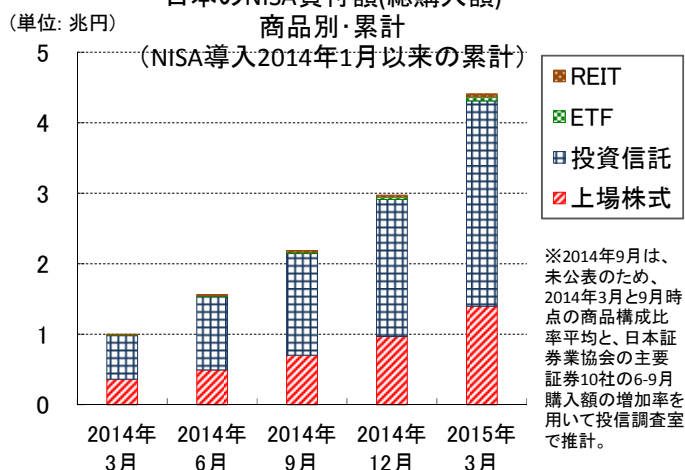
初の投信残高100兆円突破に寄与するNISAの買付額(総購入額)は4.4兆円、うち投信は3兆円!~既存投資家はREIT・日本株・グローバル債、新規投資家は日本株・アセットアロケーション型・アジア株を買っている様だ~

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## NISAで2015年3月末に買付額(総購入額)約4.4兆円、投信は3兆円!

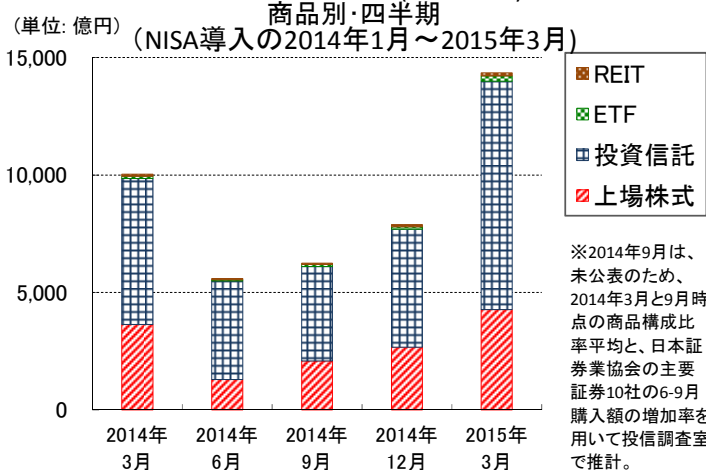
少額投資非課税制度(NISA)で投資が拡大している。金融庁が2015年6月10日(水)に公表したNISA口座の利用状況によると、2015年3月末時点でNISA口座数は約879万件、NISA買付額(総購入額)は約4.4兆円(4兆4109億8051万円)と、2014年末の約3兆円から48.2%増となった(下記左グラフ参照、URLは後述[参考ホームページ])。2014年1月からの3か月間で買付額は約1兆円(1兆34億4608万円)だったのが、2015年1月からの3か月間では約1.4兆円(1兆4340億1138万円)と導入以来最大の増加を見せている(下記右グラフ参照)。

日本のNISA買付額(総購入額)  
商品別・累計  
(NISA導入2014年1月以来の累計)



(出所: 金融庁、日本証券業協会より  
国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

日本のNISA買付額(総購入額)  
商品別・四半期  
(NISA導入の2014年1月~2015年3月)



(出所: 金融庁、日本証券業協会より  
国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

2015年6月10日(水)付日本経済新聞朝刊に「政府が月内に改定する成長戦略をめぐり、自民党の経済好循環実現委員会(委員長・新藤義孝前総務相)がまとめた提言案が9日わかった。…(略)…。家計の金融資産を成長資金に仕向けることで、金融市場の活性化につながると判断。少額投資非課税制度(NISA)の普及がカギを握るとみて、14年末時点で約3兆円のNISA口座の購入額を、20年までに25兆円に増やす目標設定を提起した。」(下記※1参照、URLは後述[参考ホームページ])という記事があったが、NISA投資の拡大で「2020年までに25兆円」という目標達成が一層現実的なものとなっている。

※1: 好循環実現委員会(委員長:新藤義孝前総務相)…安倍政権の経済政策「アベノミクス」の効果を地方に波及させるため、自民党が2015年2月に発足した日本経済再生本部(本部長・稲田朋美政調会長)直轄組織。政府が2015年6月をめぐりに成長戦略の改定版をまとめるのにあわせ、各界有識者からのヒアリングや地方の景気回復策などを議論し、自民党として提言をまとめる。日本経済再生本部「第21回産業競争力会議 配布資料「これまでの改革の主な成果と新たな取組(主要例)」の金融分野に「少額投資非課税制度(NISA)の開始(2015年3月末までに879万口座(総額約4兆円)が開設⇒更なる利用拡大に向けた施策を推進」と出ている(URLは後述[参考ホームページ])。

2015年1月からの3カ月間で約1.4兆円(1兆4340億1138万円)と導入以来最大の増加を見せているNISA投資を支えるのが、6割超を占める投資信託である。NISAを通じた投資信託への投資は2015年1月からの3カ月間で9715億円と最大(四半期ベース)となっており、前四半期比で93.6%増と、他の金融商品と比べて最も大きく伸びている(上場株式+60.2%、ETF+93.2%、REIT+51.5%)。そして、NISA買付額(総購入額)は全体が約4.4兆円の中、投資信託は約3兆円になった(上場株式1.4兆円、ETF563億円、REIT409億円)。

NISA口座の開設・利用状況調査(2015年6月10日時点の最新値)

2015年6月10日現在

公表機関	金融庁 及び推測		金融庁 及び推測		日本証券業協会 (日証協) ～四半期ベース～		日本証券業協会 (日証協) ～月次ベース～		日本証券業協会 (日証協) ～月次ベース～		
	NISA取扱全金融機関 (銀行・証券会社等) 713社		NISA取扱全金融機関 (銀行・証券会社等) 704社		NISA取扱・証券会社 130社		主要証券会社10社*		主要証券会社10社*		
	公表日	構成比	公表日	構成比	公表日	構成比	公表日	構成比	公表日	構成比	
総開設口座数	8,253,799	100.0%	8,791,741	100.0%	5,130,914	100.0%	4,066,810	100.0%	4,358,506	100.0%	
買付が行われた口座	3,720,308	45.1%	4,351,912	49.5%	2,330,874	45.4%	1,832,745	45.1%	2,190,722	50.3%	
稼働率	45.1%	—	49.5%	—	45.4%	—	45.1%	—	50.3%	—	
平均買付額(万円)	—	—	—	—	78.3	—	77	—	59	—	
総買付金額(億円)	29,770	100.0%	44,110	100.0%	18,258	100.0%	14,189	100.0%	22,000	100.0%	
投資商品	上場株式(億円)	9,705	32.6%	13,984	31.7%	9,705	53.2%	—	—	—	—
	投資信託(億円)	19,440	65.3%	29,154	66.1%	7,929	43.4%	—	—	—	—
	ETF(億円)	343	1.2%	563	1.3%	343	1.9%	—	—	—	—
	REIT(億円)	281	0.9%	409	0.9%	281	1.5%	—	—	—	—
備考	・総開設口座数は12月31日時点で投資可能な勘定が設定されている口座数。 ・買付が行われた口座の371万件は総開設口座数824万件に主要証券会社10社の2014年末時点の稼働率45.1%を掛け合わせて推計したもの。		・総開設口座数は2015年3月31日時点で投資可能な勘定が設定されている口座数。 ・買付が行われた口座の435万件は総開設口座数879万件に主要証券会社10社の2015年3月末時点の稼働率49.5%を掛け合わせて推計したもの。		2015年4月22日に日本証券業協会が発表したもの。NISA開設口座のうち、2014年6月末から12月末までの増加率は、投資未経験者が40.3%(+23万口座)と、投資経験者が6.4%(+26万口座)と比べて高い。		2015年2月18日に日本証券業協会が発表したもの。		2015年5月27日に日本証券業協会が発表したもの。 ・総開設口座数は2015年の利用率が設定された勘定設定口座数。 ・買付が行われた口座は2014年又は2015年の利用率のいずれかで買付された口座数。 ・平均買付額は2015年の利用率での買付金額を買付口座数で割ったもの。 ・総買付金額は2014年と2015年の利用率での買付金額の合計。		

\*主要証券会社10社…大手証券会社5社とインターネット専業証券会社5社。

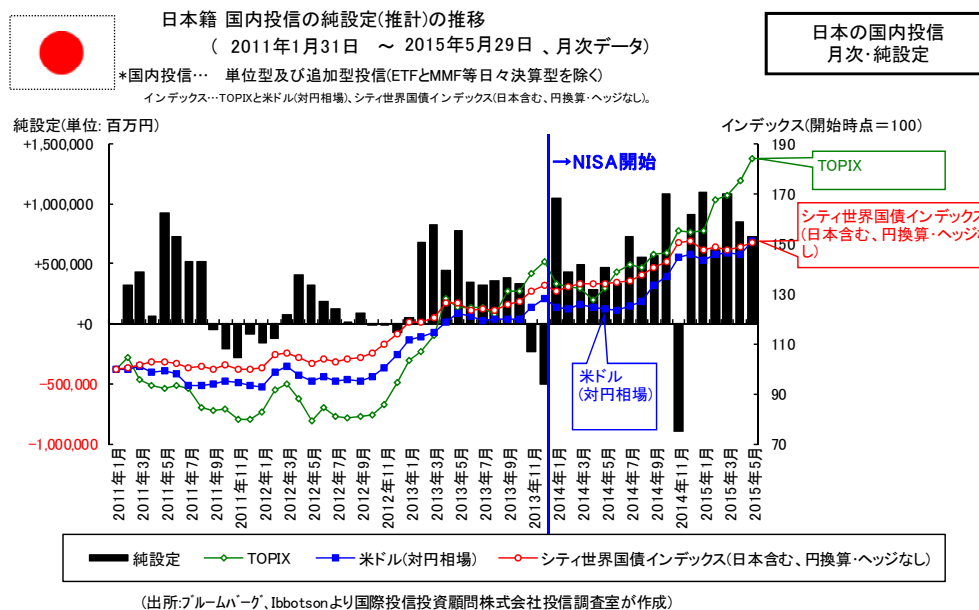
(出所: 金融庁、日本証券業協会より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

こうしたNISAで投信を買う人の増加で、株高も加わり、投資信託全体も拡大、「代表的な個人向け金融商品である投資信託の残高が5月末に初めて100兆円の大台を超えた。…(略)…。少額投資非課税制度(NISA)などを通じ個人マネーが流れ込んだうえ、円安進行と企業業績の回復を受けた株価上昇で運用も好調だった。」(2015年6月12日付日本経済新聞～URLは後述[参考ホームページ])と報じられる様になっている。

この様に一層の拡大を期待されているNISAについて、当コラムで恒例となっているのが、日本全体でNISAでは何が買われているのかを見る事。早速それを見るが、ここでは、投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分けて見ている。前者の既存投資家がNISAで投資をしている投資家の大半を占めているとされるが(60歳代以上が多い)、それは投信全体の動向で代替する事とする。そして、後者の新規投資家をNISA向けファンド(後述※2参照)で代替する事とする。

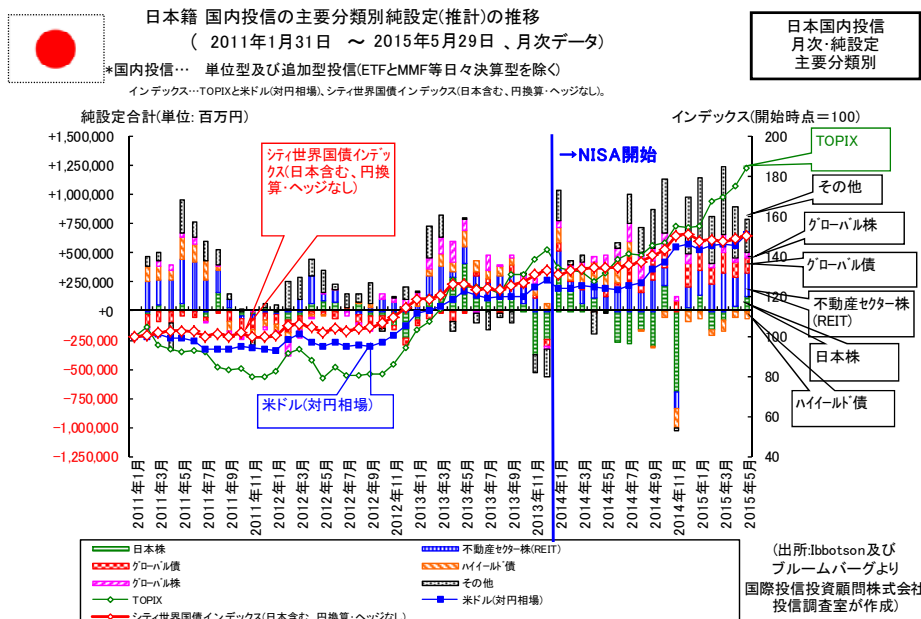
## 既存投資家は REIT・日本株・グローバル債を買っている様だ

まず既存投資家であるが、投信全体の純設定(推計)を見ると、最新 2015 年 5 月は+7305 億円と、6 カ月連続資金純流入となっている。

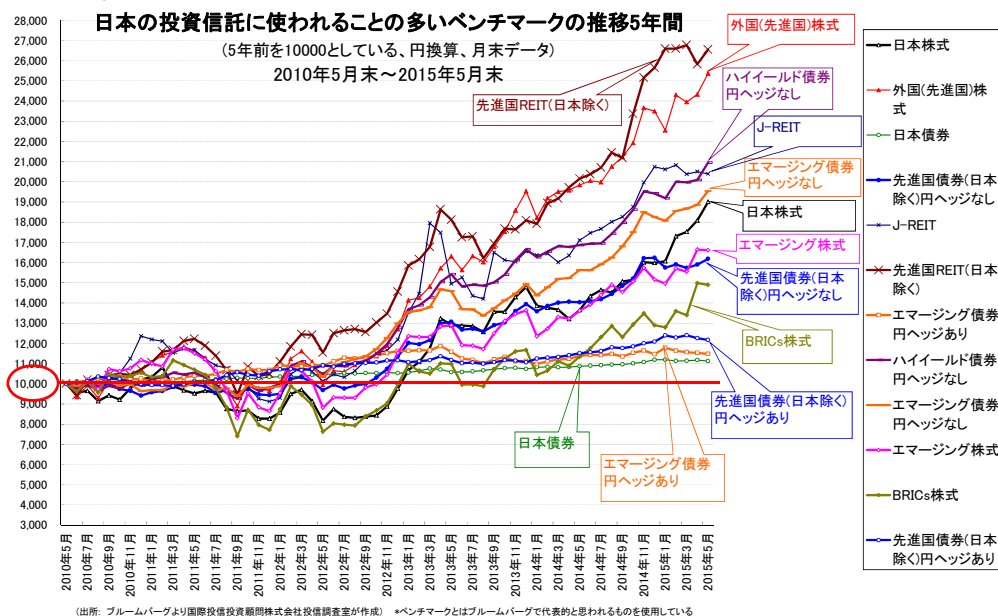


既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。5月は前月に引き続き不動産セクター株(REIT)が最も大きな純流入で、次いで日本株、グローバル債、アジア株(除く日本)などに資金が集まっている(\*主要分類…モーニングスター分類を用いて2014年12月末の純資産の大きい上位5分類。アジア株はその他に含まれる)。

2014年からの不動産セクター株(REIT)の大きな純流入と、次いでグローバル債の人気の傾向は継続、注目は日本株で、2015年5月は+1275億円と、不動産セクター株(REIT)の+2071億円よりかなり小さいが、前月4月の+481億円の2.7倍に加速している事、年初来の+871億円の1.5倍である事、そして、昨年(2014年)1年間は-6742億円の純流出で昨年5月は+76億円/13位である事からして、日本株ファンド復活はめざましいと言えよう。(2014年については2015年1月13日付日本版ISAの道 その86を参照~後述URL[参考ホームページ])。

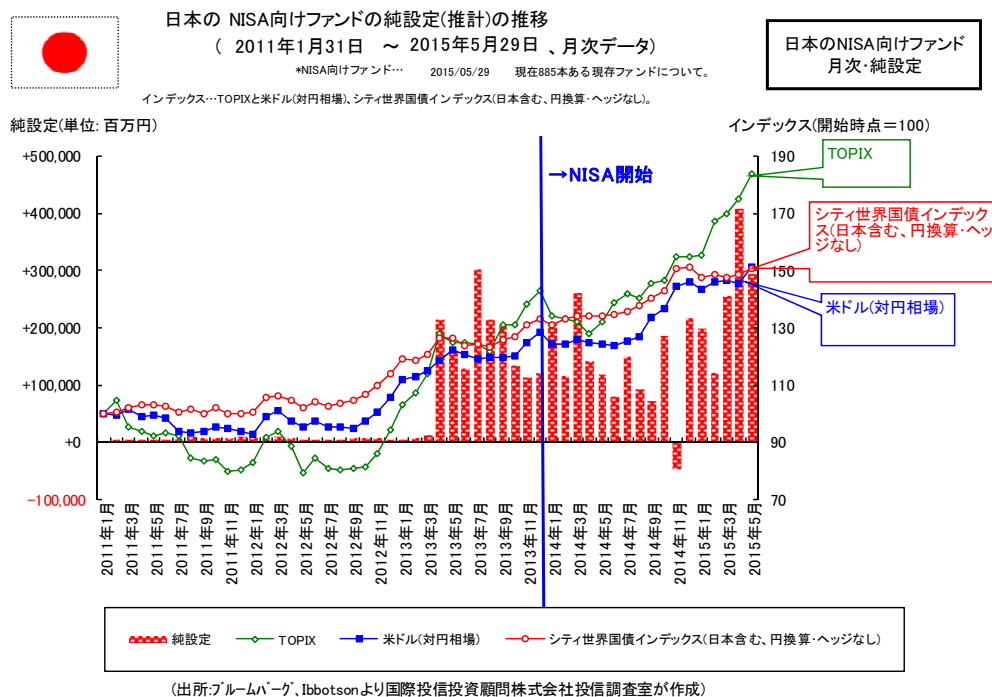


2015年5月に不動産セクター株(REIT)が最も大きな純流入で、次いで日本株、グローバル債、アジア株(除く日本)などに資金が集まった背景だが、パフォーマンスの好きによるところが大きいと思われる。投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見たのが下記グラフである。5年のパフォーマンスの好い順に、先進国REIT、先進国株式、ハイイールド債券、J-REIT、エマージング債券、国内株式などとなっている(\*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



## 新規投資家は日本株・アセットアロケーション型・アジア株を買っている様だ

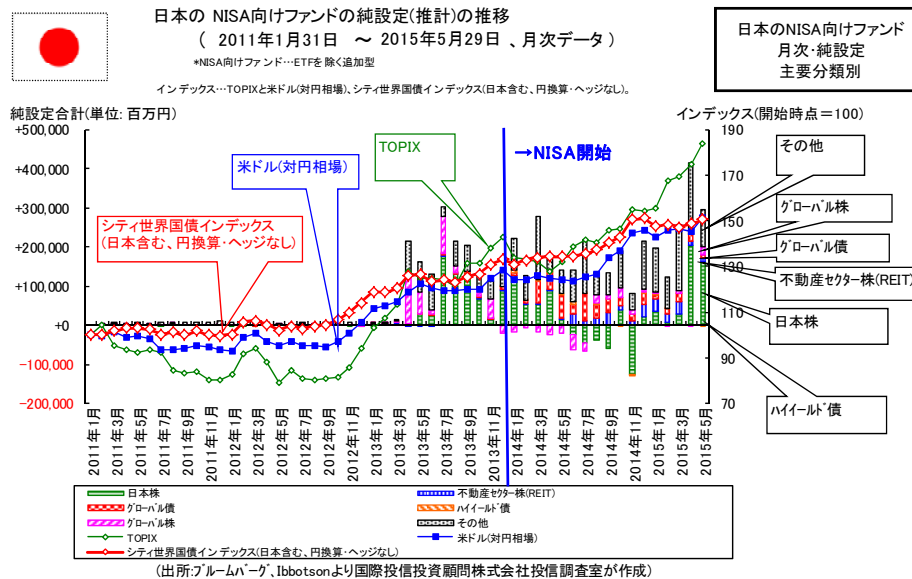
次に新規投資家であるが、NISA 向けファンド(後述※2 参照)の純設定を見ると、最新 2015 年 5 月に+2925 億円と、前月 4 月(+4080 億円)から 6 カ月連続の資金純流入で、NISA 開始(2014 年 1 月)以来最大となった前月に次ぐ大きな資金純流入だった。



この5月の新規投資家と思われる投信の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いる。純流入1位は日本株(前月4月も1位)、2位はアセットアロケー



ション柔軟型(同2位)、3位はアジア株(除く日本)(同3位)、4位はアセットアロケーション積極型(同5位~資産を柔軟に変更はしないが株式が多い型)、5位はグローバル株(同26位)となっている(アセットアロケーション柔軟型/積極型およびアジア株(除く日本)は、下記グラフで「その他」に含まれる)。



既存投資家においてめざましい復活をとげた日本株が、新規投資家においても2015年4月以降は、全体の純設定の約半分を占めるほど、日本株人気が強くなっている。またアセットアロケーション型のほかには、アジア株やグローバル株なども人気となっているのは、引き続き、BRICs 株式や国内株式、エマージング株式のパフォーマンスの好きが志向されているようだ。

日本株人気だが、金融商品別にみたNISA口座全体の購入額に占める売却額の割合(売却率)は2014年に、上場株式が最も高く28.4%、次いでREIT28.3%、ETF28.0%、最も低いのが投資信託5.6%だった(p.2の2015年4月24日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」の「NISA口座における商品別・年代別売却額の内訳及び購入額との比較」を参照)。

「上場株式」つまり日本株現物が、NISAでも売買回転の高い事を示すが、これは先述した自民党の経済好循環実現委員会の「家計の金融資産を成長資金に仕向ける」事につながりにくい事も示している。「家計の金融資産を成長資金に仕向ける」為にも、NISAでは売却率の低い日本株ファンド、より売却率の低いアセットアロケーション型ファンド・バランス型ファンドの中での日本株投資が期待される所かもしれない。

※2: 「NISA向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(\*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(\*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2015年5月29日時点で885本となった。

## ネット証券における実際の人気は日本株・REIT・グローバル株

ここで、各証券会社の集計結果も見る。2015年6月12日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

### <NISA 投資信託>

○マネックス証券では最新2015年5月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1位はアジア株ファンド、2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンド、4・5位はグローバル株ファンドとなっている。前月4月だが、1・4位はグローバル株ファンド、2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・5位は日本株ファンドだった。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週2015年5月25日から5月29日までが、1位はアジア株ファンド、2・4位はグローバル株ファンド、3位は不動産セクター(REIT)ファンド、4位は日本株ファンドとなっている。約1カ月前の2015年4月27日から5月1日までが、1・2位は米国株ファンド、3・5位は日本株ファンド、4位はグローバル株ファンドだった。

○カブドットコム証券では、2015年5月のNISA口座買付総合(約定金額)ランキングを出しており、1・3・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位はアセットアロケーションファンド、5位は日本株ファンドとなっている。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週2015年6月8日から6月12日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1位は日本株ファンド、2・3位は不動産セクター(REIT)ファンド、4位はアセットアロケーションファンド、5位は日本株ファンドとなっている。約1カ月前の2015年4月27日から5月1日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・2位は日本株ファンド、3・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、4位はアセットアロケーションファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、2015年6月1日から6月5日までのNISA投資信託・買付金額の1・3位は日本株ファンド、2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位はグローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の2015年4月27日から5月1日までのNISA投資信託・買付金額の1・2・5位は日本株ファンド、3・4位は不動産セクター(REIT)ファンドだった。

<NISA積立~2015年6月8日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2015年5月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1位はグローバル株ファンド、2・3位は日本株ファンド、4位はアセットアロケーションファンド、5位は新興国株ファンドとなっている。

○カブドットコム証券では、2015年5月のNISA口座積立総合(約定金額)ランキングを出しており、1位はアセットアロケーションファンド、2・3位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位は新興国株ファンドとなっている。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、2015年6月1日から6月5日までのNISA口座では、1・4・5位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンドとなっている。

ネット証券の NISA 投資動向は、新規投資家および既存投資家の傾向と同様に、人気は日本株、次いで REIT ファンド、アジア株など外国株への人気も見られた。

以上、既存投資家は REIT・日本株・グローバル債を買っている様であり、新規投資家は日本株・アセットアロケーション型・アジア株を買っている様である事がわかった。ネット証券における実際の人気は日本株・REIT・グローバル株などである事もわかった。「**金融商品の選択肢があまりに多い。…(略)…『情報が多すぎる』。結局、『何を買えばいいのか分からない』**」(2015年3月3日付 日本経済新聞朝刊と言う個人に、少しでも参考になれば幸いである。

以上  
(投信調査室 松尾健治、窪田真美)

[参考ホームページ]

2015年6月10日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」(平成27年3月末時点)の「NISA口座の利用状況について」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20150610-1.html>」、

日本経済再生本部「第21回 産業競争力会議 配布資料「これまでの改革の主な成果と新たな取組(主要例)」…「<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/skkkaigi/dai21/sankou1.pdf>」、

2015年6月12日付日本経済新聞朝刊「株高やNISAが寄与 投信残高、5月末100兆円突破」…「[http://www.nikkei.com/article/DGXLASGF11H0U\\_R10C15A6EE8000/](http://www.nikkei.com/article/DGXLASGF11H0U_R10C15A6EE8000/)」、

2015年1月13日付日本版ISAの道 その86「税制改正大綱にジュニアNISA創設とNISA120万円への引き上げ1月から年単位で金融機関の変更が可となり、NISA拡充に期待が膨らむ中、NISAの2015年分で何に投資する?

NISAの2014年分の投資(投信分)を総括!!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150113.pdf>」、

2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、

マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales>」、

カブドットコム証券のNISA月間口座買付総合ランキング…「[http://kabu.com/item/nisa/ranking/fund\\_generation.html](http://kabu.com/item/nisa/ranking/fund_generation.html)」、

SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、

楽天証券のNISAランキング・投資信託…「[https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/#nisa\\_ranking](https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/#nisa_ranking)」、

2015年6月8日付日本版ISAの道 その104「マイナちゃんとニーサ(NISA)～マイナンバーのメリットとデメリットをしっかりと理解、金融機関などが政府と共にマイナンバーを普及、情報提供に努める事が期待される～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150608.pdf>」。

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

○本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。

○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。

○本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。